

2020年度の学校評価 自己評価結果等

本年度の重点目標	① 確かな学力と逞しく生きる人間力の育成（「校訓」知・仁・勇の推進—文武両道） ② 3つの目標「進路希望の実現」「授業規律の更なる改善」「道徳性・社会性の醸成」 ③ 教職員の心身の健康と充実した教育活動の両立		
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題(【 】は自己評価)
校内運営及び、地域連携・家庭連携	式典への取組、及び地域・家庭との連携	式典や集会の意義を伝え、意識を高める。	【B】感染症対策を行い、節目ごとに式典、集会を開催し、意識づけを行うことができた。
		地域や保護者、中学校に本校の取組を情報発信する。	【B】ホームページ、きずなネットを活用して感染症への対応や学校行事の様子などについて発信に努めた。
	生徒の進路希望の実現	進路ガイダンスや面談により、進路意識を向上させる。 外部組織との連携により、就職指導を充実させる。	【A】面談や進路希望調査を通じ生徒の意向を把握しつつ、意識の向上を図ることができた。 【A】就労アドバイザー、公共職業安定所や事業所等との綿密な連携により、生徒に適切な就職指導を行い、ほとんどの希望者が就職に至った。
多忙化解消に向けて	教職員の健康維持に配慮した体制を構築する。	【A】年休取得の奨励、休業期間中の在宅勤務の割振りなど、教職員の心身の健康維持に配慮した体制を整えた。	
学習指導 (教務部)	基礎学力の定着	授業の教材の精選や工夫を行う。	【B】小テスト、プリント学習、ノート点検等、各教科きめ細かい授業を目指し、個々の生徒の状況に応じた指導に努めた。
		基礎学力が不足している生徒にきめ細かく指導する。	【B】学力に不安がある生徒に考査前などの始業前や授業後、個別に学習指導を行った。
	教科指導の充実	授業規律を確立し、学習に前向きな姿勢を養う。	【A】情報を共有し、指導することにより、授業規律を確立し、学びの環境を整えることができた。
		アクティブラーニングなど学習指導を工夫する。	【B】生徒が授業に主体的に参加できるよう取組を進めた。休業期間中にオンライン学習の案内など行ったが、活用は低調であった。
生徒指導 生徒会活動	基本的な生活習慣の確立	遅刻・欠席者への指導を充実させる。	【B】欠席、遅刻を重ねる生徒に面談等を行い、個別に指導を行った。
	交通安全指導の徹底	夜間の登下校時の安全意識を高める。	【A】登下校時に校門付近で立ち番指導を行い、自転車の無灯火など指導し、改善された。
	学校行事の活性化	体育大会・文化的行事等への意欲的な参加を喚起する。	【B】生徒会執行部を中心に、生徒が積極的にかかわれる場を設け、自主性の成長を促すことができた。
保健厚生 (生徒指導部)	相談活動の充実	健康観察、面談等を通して生徒の実態や変化をつかむ。	【A】スクールカウンセラーと連携し、個別支援を手厚く行うことができた。
	美化活動及び食育の推進	給食献立掲示板を生徒に描かせるを通じ、食への理解を深める。	【A】メニューボードの作成を継続して行うことができた。また、周辺環境の整理・清掃の時間を設け環境美化への意識を喚起することができた。
	コミュニケーション能力の向上	多様な生徒とのふれ合いをおし、他者理解を深め自尊感情やコミュニケーション能力を高める。	【B】グループワークを実施し、コミュニケーションの大切さを意識づけした。感染症対策を指導することを通じて、互いを思いやる心を育むことができた。
総合評価	・確かな学力と逞しく生きる人間力の育成について 生徒一人一人が社会で自活できる力をつけられるよう、基本的な生活習慣の確立・コミュニケーション能力を高める取組の工夫を行い、感染症対策への取組につなげることができた。また、「学び直し」指導を含めたきめ細やかな学習指導を行い、一定の成果を上げることができた。 ・3つの目標の実現について 感染症対策に取り組みながら、目標の実現に向けての取り組みを遅滞することなく進めることができた。進路指導については、引き続き、個々の生徒に応じた丁寧な進路指導を徹底し、進路実現につなげることができた。学習指導では、落ち着いた学習環境を整え、休業期間後の授業を工夫し、生徒の意欲向上につなげることができた。生徒指導では、日々のきめ細かな指導によって規範意識の向上や社会性を育むことができた。 ・円滑な教育活動が推進できるよう、教職員の健康維持に配慮した体制の構築について 感染症対策を徹底しながら、校務が円滑に進むよう休業中の業務の工夫や環境の整備を行い、教職員の心身の健康維持に配慮した体制を整えた。		